

# Japan Boating & Water Safety Summit 2018

## 日本水上安全・安全運航サミット

### 実施報告書



実施日:平成 30 年 6 月 9 日(土)・10 日(日)  
場 所:日本海洋大学 越中島キャンパス

共 催 :<JBWSS 連携協議会>  
一般社団法人日本水難学会  
一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会  
公益財団法人マリンスポーツ財団

・国土交通省海事局  
・海上保安庁

後 援 :運輸安全委員会

参加団体:56 団体/139 名



## 1. 概況

3回目の開催となる今回は、初めて2日間に亘っての開催となり、全国の安全運航・水難防止に係る多数の関係団体が参加のもと、盛況裡のうちに終了することができた。

今回はプログラムが増加し、各団体の取り組みや最新の情報、スタンドアップパドルボード(SUP)など新興水上スポーツの国内事情等の講演に加え、紹介ブースの出展も充実するなど、幅広い情報を参加者と共有することができ、初日には“WEAR IT”キャンペーンを展開するとともに、レジャー用ライフジャケットの展示と解説コーナーを設けるなど、ライフジャケットに関する情報発信も充実した。

また新たな試みとして、東京海洋大学の施設であるポンド(船貯)の水面において、イギリスを中心に活動する Atlantic Pacific International (API) が、岩手県釜石市から自作の IRB (インフレーターブルレスキューボート) を持ち込んでデモンストレーションを実演し、操船要領や救助手法を間近で体感することができ、海上保安庁によるパネルディスカッションでは、「自己救命策について考える」という主題のもと、ライフジャケットの着用について、当テーマに造詣が深い6名をパネラーに迎え、活発な議論が展開された。

## 2. 共同声明の発表

①以下の内容にて、共同声明を発表した。

### 共同声明

Japan Boating and Water Safety Summit 2018では、水上安全及び安全運航に取り組む機関が集い、連携・意見交換・協力を行うことができました。今後もこうした交流を継続発展させ、安全で有意義な人と水域環境の結びつきを目指して次のような取り組みを行ってまいります。

- 1、水辺の活動の安全向上について取り組みます。
- 2、水辺の活動の振興について取り組みます。
- 3、水辺の環境保全について取り組みます。



②共同声明賛同団体 15 団体

NPO 法人日本ライフセービング協会 / 一般社団法人 日本釣用品工業会

NPO 法人日本プロライフガード協会 / 日本カヤックフィッシング協議会

北海道ウォーターセーフティー協会 / ファーストメディア株式会社

一般社団法人日本スタンドアップパドルボード協会 / カヌー工業会

Atlantic Pacific International / Atlantic Pacific Japan

NPO 法人浜松ライフセービングクラブ / 一般社団法人日本小型水難救助艇協会

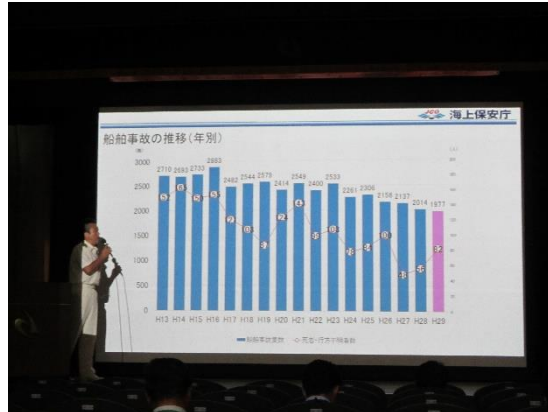
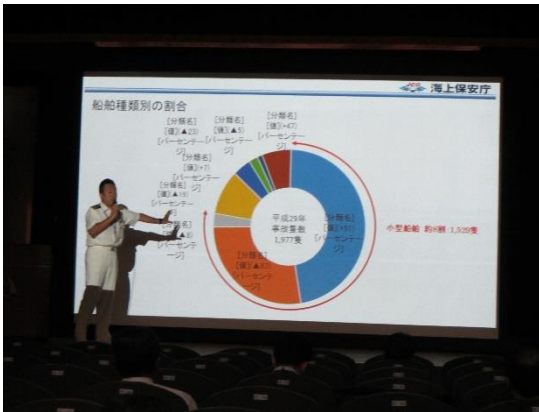
一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会 / 一般社団法人水難学会  
 公益財団法人マリンスポーツ財団

(順不同)

### 3. 各団体の発表(6月9日分)

(1) 第4次交通ビジョンとウォーターセーフティガイドについて

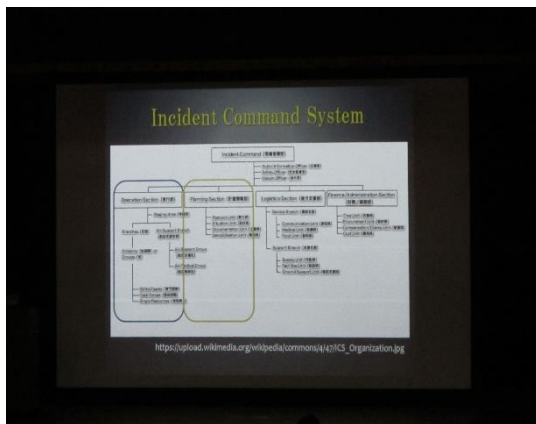
/海上保安庁 交通部 安全対策課



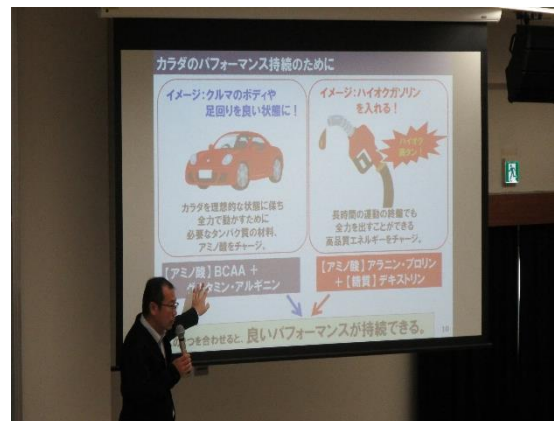
(2) 水難事故に対する取り組みについて/総務省 消防庁



(3) 寒冷地における訓練と練習と連携/旭川医科大学病院



(4) 安全のためのからだのコンディショニング/ 味の素株式会社



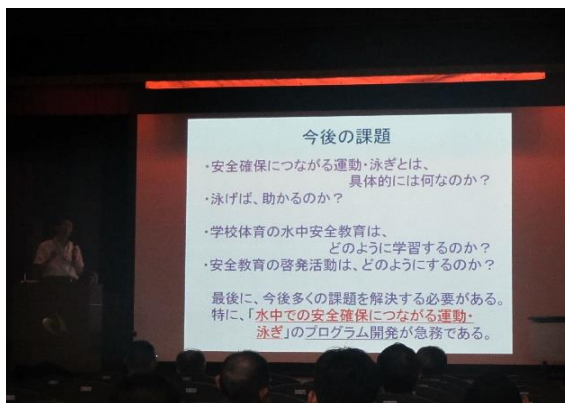
(5) スマートフォン防災アプリに海の安全情報を配信/ファーストメディア株式会社



(6) [基調講演] 我が国の水難を包括的に議論する/日本水難学会 会長 斉藤秀俊



(7) [招聘講演] 新学習指導要領の水泳運動に明示された「安全確保につながる運動」/筑波大学教授 椿本昇三



(8) 運輸安全委員会における船舶事故等調査について/運輸安全委員会



(9) Maris の活動について/公益財団法人 マリンスポーツ財団

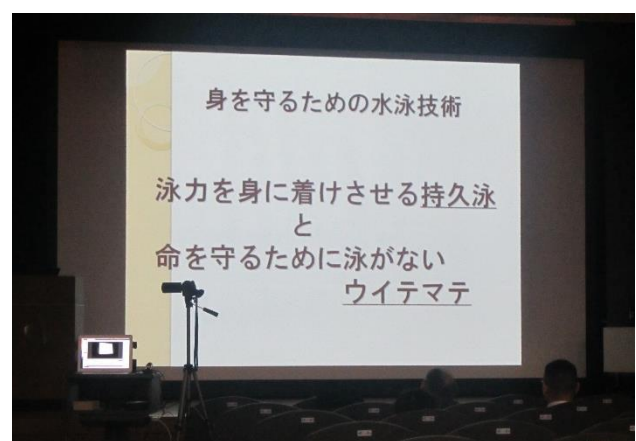


(10) 日本水難学会 一般講演 A

① 指導者養成講習実技指導要領の作成について



② 静岡スイミングクラブ協会との共同取り組み

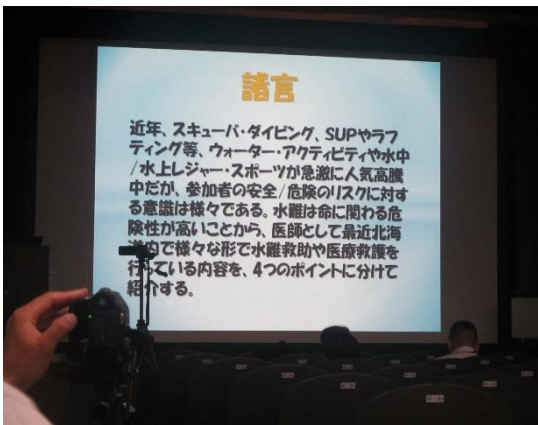


③消防が保有する資器材を用いた出張ミニういてまで教室を考察する



(11) 日本水難学会 一般講演 B

① 北海道における水難救助や医療救護の各種取り組みについて

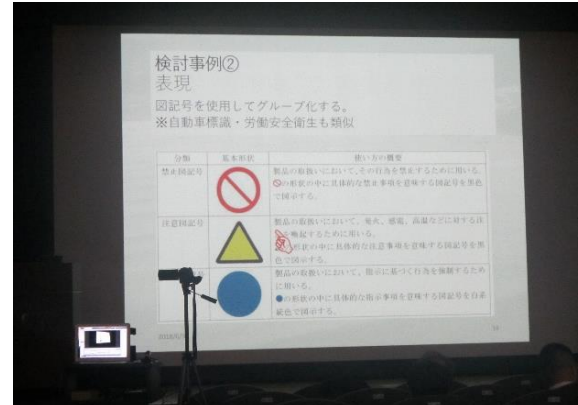


② 石狩湾奥部の海岸付近における天候変動時の流況変動に関する研究



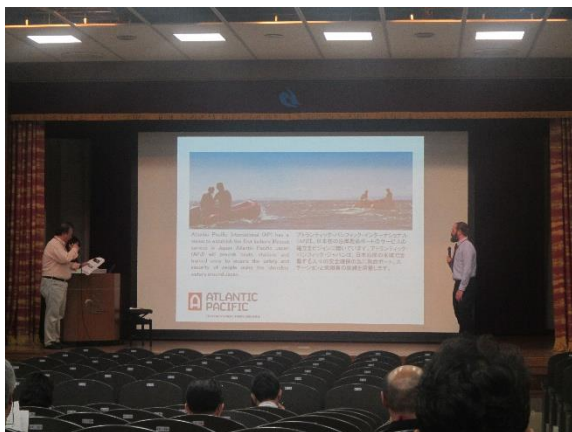


### ③効果的な注意警告看板(仮称)の検討

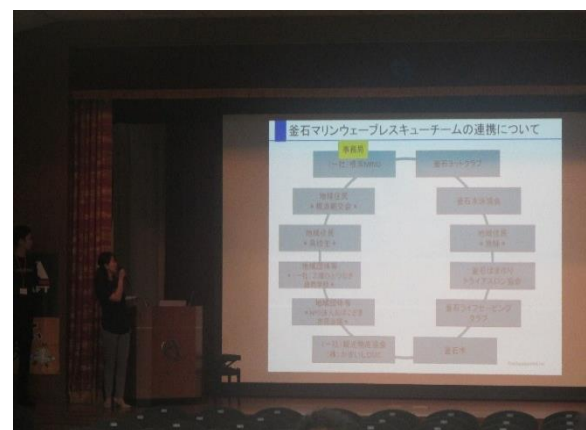


## 4. 各団体の発表(6月10日分)

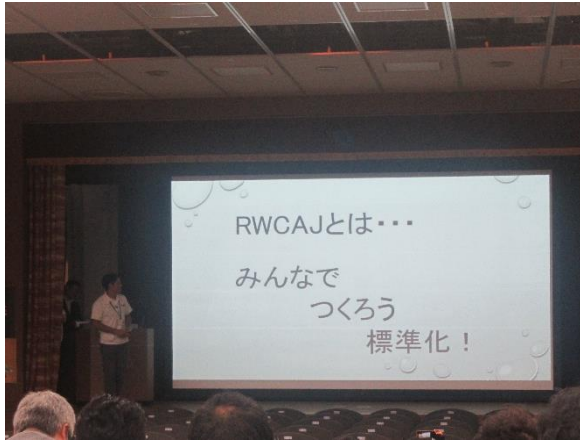
### (1) Atlantic Pacific 式ボート水難救命の試みについて/Atlantic Pacific International



### (2) 東日本大震災を受け開始「地域住民主体のボートレスキューの仕組づくり」



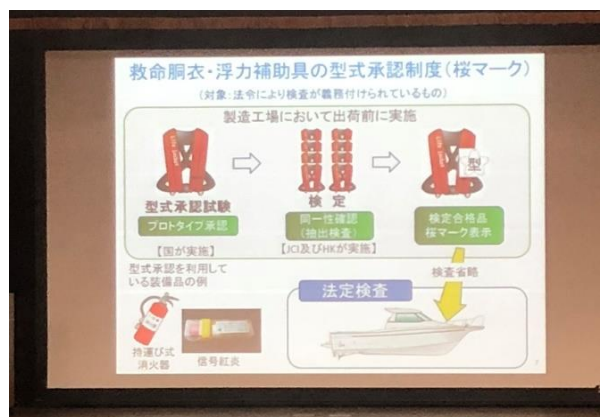
(3) RWCAJ の活動紹介 / 一般社団法人 日本小型水難救助艇協会



(4) IBWSS 報告 / 一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会

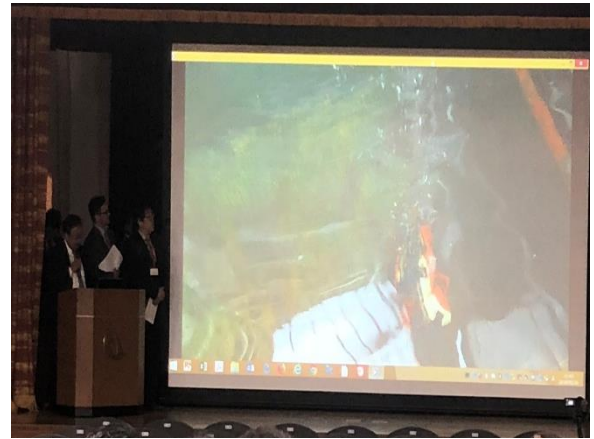
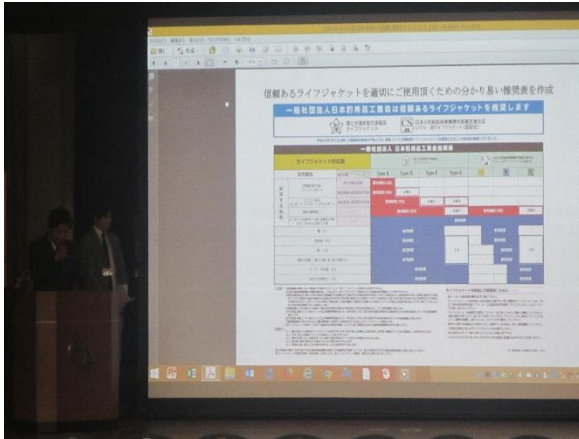


(5) レジャー用ライフジャケット性能確認制度 / 日本小型船舶検査機構



(6) レジャーで使用する個人用浮力補助具について

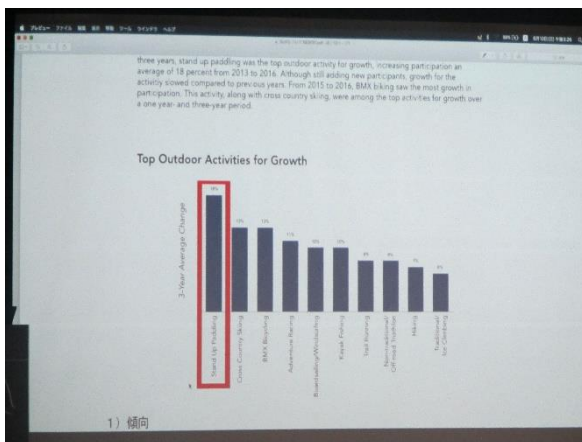
/一般社団法人 日本釣用品工業会



(7) ライフジャケットの性能紹介/小型船舶関連事業協議会



(8) 国内における SUP 事情/一般社団法人 日本 SUP 指導者協会



- <問題点>
- ※ SUPは、風や潮に流されやすい！！
  - ※ 他の船舶等からの視認性が悪い！！
  - ※ 知識や段階を踏まなくても、容易に漕ぎ出している！！
  - ※ ネット販売等で、誰でも手軽に購入可能！！
  - ※ サーフポイントや釣り場等への安易な侵入！！
  - 等々...
- <行われている対策>
- ※ 始める際は、公認指導者へ参る！！
  - ※ 浮力体、リージンコード、の着用！！
  - ※ 携帯電話の所持！！
  - ※ ウォーターサーブーの着用！！
  - ※ その日の気任配慮を知り、観天望気心がける
  - ※ 自立つ色の服装！！
  - ※ 常に道具を点検する
  - 等々...

(9) 小型水難救助艇操縦士養成講習会について/JPBOT プロジェクト



5. パネルディスカッション「自己救命策について考える」の様子



6. IRB 水難救助デモンストレーションの様子





## 7. 展示ブースの様子



(一社) 日本釣用品工



(株) モビーディック



(株) 舵社



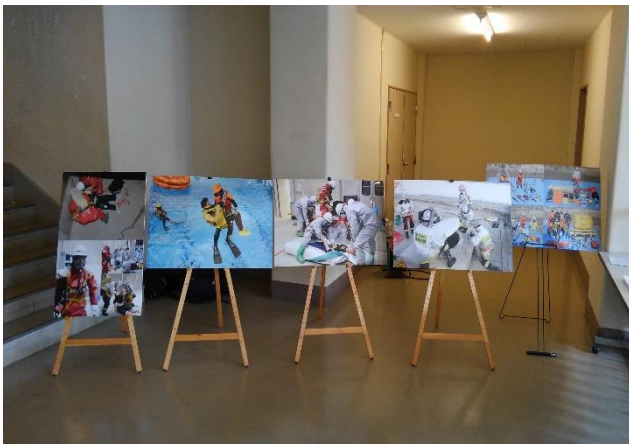
(一社) 日本小型水難救助艇協会



小型船舶関連事業協議会



(一社) 日本海洋ドローン協会



海上保安庁



日本海洋(株)



WEAR IT キャンペーン